

『凍結切片作製の実習・やってみよう川本法』研修会感想

彩の国東大宮メディカルセンター 臨床検査科 小島 なるみ

今回初めて病理の実技研修会に参加させて頂きました。凍結切片の作製方法についての説明やトラブル回避方法、粘着フィルム（川本法）を用いた凍結切片作製について教えて頂きました。川本法とは、切片支持用粘着フィルムを用いて凍結切片を作製する方法で、作製困難な試料でも形態が保たれた切片を容易に作製できる方法です。骨や石灰化などの硬組織の標本作製では、固定～脱灰作業を有し、薄切も難しく熟練した技術が必要です。また免疫染色を行う場合、組織の過剰な固定や脱灰は抗原性を失活させてしまう可能性があります。しかし、川本法を用いれば未固定非脱灰の硬組織でも容易に綺麗な切片を作製できることがわかりました。更に、脂肪組織の薄切時間の短縮や組織切片の欠損やめくれなどのアーチファクトが軽減されることから、近年、術中迅速病理診断の凍結切片作製にも有用であることが理解され多くの施設で活用されているとのことでした。

研修会では、実際に脂肪組織を試料とし、川本法を体験することができました。私自身は、脂肪組織が多い試料では形態が保たれた切片を作るには時間がかかってしまい、苦慮していたので上手く作製できるか不安でした。しかし、慣れるまでは粘着フィルムを張り付けるのに手間取ってしまいましたが、脂肪組織も綺麗に切ることができ、良好な切片を作製することができました。

さっそく当院でも活用できないか、乳腺の術中迅速病理診断の凍結切片作製時にサンプルを用いて標本作製しました。病理医からアーチファクトが加わることなく全面が薄切され、固定標本とほとんど変わらないと好評でした。身をもって川本法の有用性を体験することができ、大変実りある研修会でした。今研修会で得た知識と技術を業務に活かしていきたいと思います。